

## がん化学療法を受ける患者さんへ

### 発熱（感染症）

抗がん剤により白血球が少なくなると、免疫が低下して感染症にかかりやすくなります。病原菌がからだで増殖すると高熱が出ます。時に菌が血液中に入り、敗血症などの重篤な感染症を引き起こすこともあるため、注意が必要です。

抗がん剤によっては、体が薬に反応して一時的に高熱が出る場合もあります。

#### ●発熱（感染症）が起こりやすい時期

抗がん剤投与後 10日～14日程度

★抗がん剤の種類・スケジュールによって症状が起こりやすい時期や程度は異なります。  
ご自身の抗がん剤について、病院スタッフに聞いてみましょう。

#### ●発熱（感染症）を予防するための工夫

- 白血球の少なくなる時期は満員電車などの人混みはなるべく避けましょう
- 白血球の少なくなる時期は外出時にマスクを着用しましょう
- 手洗い・うがいをこまめに行いましょう
- 特に家族で感染症にかかっている方がいれば、マスクを着用してもらうようにしましょう



## ●抗菌薬

★細菌をやっつけるお薬です。

★38℃以上発熱時に内服開始しましょう。内服タイミングは朝昼夕、食前後いつでもよいです。

★2日目以降も、1日目と同じ時間帯に1日1回内服しましょう。

★飲み始めたら、解熱してもすべて飲みきりましょう。

★指示がある場合は、内服開始した旨を（なるべく日中に）病院に連絡しましょう。

★数日内服しても解熱しない場合は（なるべく日中に）病院に連絡しましょう。

★副作用で便が緩くなる場合があります。

★マグネシウム、アルミニウムを含むお薬（マグミット、スクラルファートなど）、鉄剤と同時に飲むと 抗菌薬の効果が弱まります。抗菌薬をのんで、2時間以上あけてから鉄剤など上記の薬を飲むようにしましょう。

お薬の名前	用法	お薬の名前	用法
レボフロキサシン 	1回1錠 1日1回  日間	ジェニナック 	1回2錠 1日1回  日間

## ●解熱鎮痛薬

★高熱でからだがつらい場合、内服しましょう。

★発熱時、解熱鎮痛薬だけでは感染症は改善しません。必ず抗菌薬と一緒に内服しましょう。

★高熱がつづく時、4-6時間あけて、1日3回まで内服できます。

お薬の名前	用法	お薬の名前	用法
カロナール200mg 	1回2錠 高熱時	カロナール500mg 	1回1錠 高熱時

抗菌薬を開始して数日経過しても解熱しない場合、息切れなど発熱以外にもつらい症状がある場合は、おかけの診療科にご相談下さい。

★内服の抗がん剤を続けている方は、症状によってはお薬を中断した方がよい場合もあります。お薬の継続についても相談しましょう。

## ●連絡先

東邦大学医療センター 佐倉病院（代表番号：043-462-8811）

★電話をする時は手元に診察券を準備しておきましょう。